



◆決算審査特別委員会も開催された9月定例会が開会！◆

～令和6年度一般会計予算609億4666万円の決算が承認される～

9月定例会が、まだまだ残暑厳しい25日(木)に閉会しました。今定例会では「野田市の小児科の夜間・休日などの救急医療体制」について一般質問しました。

また、「決算審査特別委員会」も開催され、令和6年度の予算が適正に執行されたかどうか、900ページにも及ぶ「令和6年度歳入歳出決算書」を8名の委員が細かくチェックし、少しでも疑問などがあればその度に質問。それを当局の代表が答えることを繰り返し3日間慎重に審議を重ねて、令和6年度の予算が適正かつ効率的に執行されたと認められたのです！



※一般質問「野田市の小児科の夜間・休日などの救急医療体制について」

小さなお子さんを持つ親御さんから、夜間や休日に子供の具合が悪くなった時、野田市ではなかなか診てもらえるお医者さんが見つからない。3つある救急指定病院に電話しても小児科は診てもらえず、市内の小児科医院は診療外で電話も繋がらない。やむなく119番通報したら柏方面を薦められた。どうして野田市内で診てもらえないのか…と、苦情や相談をいただくことが度々あります。

市は、オンライン診療に力を入れていると言うものの、やはりドクターに子どもの顔や様子をしっかりと診て診察してほしい、と考える親御さんが多いのは当然です。

小児科医の医師不足は野田市だけではなく全国的な問題とも言われていますが、野田市は「元気で明るい家庭を築ける野田市」を掲げているわけで、そのためには安心して子供を産んで、安心して育てられる市である必要があると思います。

小児科医不足は、その解消に向けて行政でも最大限の努力をしていかなければならないと考え、幼い子供を抱えた親御さんの不安や不満を届ける意味でも、課題や今後の見通しについて一般質問で訴えたのです！

【答弁】

小児科医の不足については、野田市を含めた5市東葛北部保健医療圏で、他市との連携を図りそれぞれの市で自己完結できない事案に対しては協力し合って対応している。野田総合病院については、来春にも小児科医が採用され小児科の入院も可能になる予定。市内の小児科を標榜している医院は20院以上あるが、医師の働きかた改革の面からも、小児科医の持ち回りの当番医をお願いするのは厳しいと考える。

★一般質問を終えて★ この小児医療問題は、積極的に国が取り組む問題なのかもしれませんが、3つある救急指定病院が夜間や休日に、小児科を受け入れてくれないことが一番の問題だと考えます。市内の小児科を標榜している医院の夜間・休日の持ち回り当番医が実現できたら、野田市の良いアピールにもなると考えたのですが、厳しいようで残念です。



★トピックス★

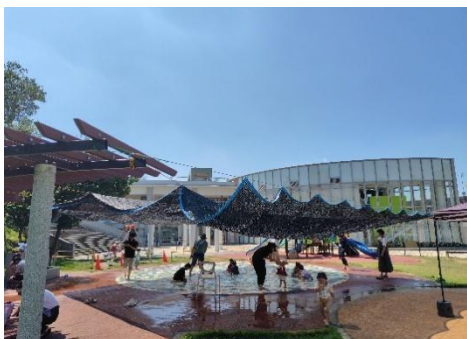
① のだしこども館(supported by kikkoman)噴水広場に、立派な日よけが設置されました！

昨年の9月定例会の一般質問で、「のだしこども館(supported by kikkoman)の噴水広場に簡易テントでなく、日差しを遮るためのきちんとした日よけを設置すべき！」と、訴えたのです。

その訴えがあったからかどうかは分かりませんが、とても立派な、ほぼ噴水広場全体が日陰になる日よけが設置されたのです。

私も、8月下旬の土曜日に行ってみたのですが、たくさん子どもたちが厳しい日差しを気にすることなく、水遊びを楽しんでいました。

更衣用テントも設置されていて、スタッフの方ともお話ができ、市外からの利用も多いということを聞いて、ちょっと嬉しくなりました(^^)v



② 7月10日(木)、11日(金)の1泊2日で、秋田県大館市と福島県郡山市に行政視察に行ってきました！

「野田の明日を考える会」の金木祐輔で、大館市と郡山市に行政視察に行ってきました。人生3度目の真面目な一人旅！

大館市の「ふるさとキャリア教育」は、大館市の未来を担う人材育成を目的として、ふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育」と、その基盤の上に自らの人生の指針を描く「キャリア教育」を融合した独自の教育理念です。

「大館盆地を学び舎に、市民一人一人を先生に」をコンセプトに、それぞれの小学校・中学校で工夫を凝らして、ふるさとに根差した様々な教育活動を行っているのです。

その中で子どもたちが自己有用感を高め、ふるさとへの誇り、そして、自立の気概と能力を備えた「未来大館市民」として成長することを目的としていて、訪問した上川沿小学校でも、子どもたちが生き生きと学んでいるのが印象的でした。

行政、学校、企業、地域、家庭など大館市が一体となって、少子化や人口減に歯止めをかける意味でも「少数精鋭の街」を目指す様々な取り組みを行い、子どもたちに大館市民であることに誇りを持ってほしいという思いが、参考になり刺激を受けました！



郡山市役所では、市のさらなる活性化や発展を目指して「Z世代活躍係」を設置し、Z世代の若者職員がまちづくりに参画し、「若者が主役となって活躍できるまち」、「若者のやりたいことが実現できるまち」を作るための様々な取り組みで成果をあげています。

Z世代の新しい感性や発想をまちづくりに反映させ、行政と民間企業などがタッグを組んで、郡山市を活性化させようとする取り組みはとても素晴らしいもので、これも大変参考になりました。

これからの野田市の活性化、発展のためにもぜひ取り入れたい施策だと思いました。

③ 8月1日からの学校プール開放事業で、6つの小学校で泳いでみました(๑_๑)v

昨年の野田市の夏休みプール開放事業は、予定されていた開放回数の1/3以上が、猛暑や台風の影響で開放中止になりました。前号でもお知らせしたように、今年は学校を3校増やし計8校、開放時間も暑さ対策として、8時からに前倒ししたのですが、朝早い1部は開放できても、暑さ指数が基準値を超えて開放中止になる回が多くありました。

私は以前から、天候に左右されることなく子どもたちに安定した遊水機会を確保してあげるべきで、我孫子市や柏市のように、民間のスイミングクラブに委託すべきと訴えて来ましたが、実現に向けてはかなり厳しいようです。

そこで、今年新たに開放した小学校と、去年行かなかった小学校のプール計6校に泳ぎに行ってみました。

8月1日(金)は山崎小、3日(日)東部小、9日(土)関宿中央小、18日(月)岩木小、20日(水)関宿小、26日(火)七光台小で、去年泳ぎに行ったみずき小と野田中央小とを合わせ計8校、これで開放事業コンプリート(๑_๑)-☆

どこでも最年長の一見怪しげな親父(笑)でしたが、泳ぎに来ている子供たちに得意の指水鉄砲や、蹴伸びやクロールなどを教えてあげ、のんびり500m泳いで心も体もすっきりいい気分！

七光台小ではクロールを教えてあげた3年生の女の子が、市役所でお世話になっている部長さんのお子さんだったり、関宿小と七光台小で受付をやっていた74歳の男性と仲良くなって「市議として、こう活動しなさい！」と、色々アドバイスをいただいたりと、たくさんの出会いがあった楽しいプール開放でした。

でも、暑いから泳ぎたいのに暑すぎて泳げない💦(特に12時からの第3部は中止になることが多かった)というのには、どうしても納得できない自分がいました(T_T)



関宿小のプールから江戸川土手を望む

野田市議会議員の金木祐輔と申します。私の活動報告書をポスティングさせていただきました。読んでいただけたら嬉しいです。もしご不要であったり、ご迷惑に感じられましたら、大変申し訳ございませんでした。

下記アドレスまでご連絡いただければ、今後は投函しないようにいたしますので何卒よろしくお願い申し上げます。

※ご意見などありましたらこちらへ kaneking@jcom.zaq.ne.jp または kaneking3175@gmail.com

※「野田市 金木祐輔」で検索すると、教え子が作成してくれているHPが見られます。このバックナンバーも！